

第 31 回日本臨床エンブリオロジスト学会学術大会

P-55

神奈川、2026.1.7-8

年齢層別にみた iDAScore と PGT-A 結果および臨床転帰との関連

中野達也<sup>1</sup>、中岡義晴<sup>1</sup>、森本義晴<sup>2</sup>

<sup>1</sup>医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

<sup>2</sup>医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

## 目的

近年、胚の発生過程を自動解析しスコア化する AI システム(iDAScore)が導入され、形態的評価のみならず、発生動態から染色体正常性を予測する試みが進んでいる。一方で、iDAScore と PGT-A 結果や臨床転帰との関連は十分に検証されていない。そこで本研究では、iDAScore と PGT-A による染色体解析結果および移植後の妊娠転帰との関連を年齢層別に検討し、iDAScore の臨床的有用性を評価した。

## 方法

日本産科婦人科学会の選定方針に従い、2024～2025 年に当院で EmbryoScope にて胚盤胞まで培養し、iDAScore を算出後に PGT-A を実施した胚盤胞を対象とした。採卵時の妻年齢を 39 歳以下と 40 歳以上に分類した。検討①では、染色体解析結果(n=333)を正常・モザイク・異常に分類し、それぞれの平均 iDAScore を比較した。検討②では、PGT-A で移植可能と判定された胚の移植後経過(n=80)を、胎嚢(GS)の有無で分け、平均 iDAScore を比較した。

## 結果

検討①:39 歳以下・40 歳以上ともに、正常群に比べ異常群で iDAScore が低値を示した(39 歳以下:正常 6.2、モザイク 5.5、異常 4.6/40 歳以上:正常 6.8、モザイク 6.0、異常 5.4)。検討②:両年齢層において、GS の有無による iDAScore の差は認められなかった(39 歳以下:GS+7.0、GS-7.1/40 歳以上:GS+6.8、GS-5.9)。

## 考察

本研究より、年齢にかかわらず染色体異常胚では iDAScore が低値を示し、発生動態が胚の染色体正常性をある程度反映していることが示唆された。一方、移植可能胚における妊娠成立の有無では差を認めず、着床や妊娠継続には胚外要因の関与が考えられた。PGT-A における iDAScore は染色体正常予測の補助指標として有用であるが、臨床転帰予測には限界があり、今後さらなる

症例集積と多角的評価が必要である。